

入 札 説 明 書

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務

[全省庁共通電子調達システム対応]

環 境 省

はじめに

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務の入札等については、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）、契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）、その他の関係法令及び環境省入札心得（別紙）に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1. 契約担当官等

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 大竹 敦

2. 競争入札に付する事項

- (1) 件名 平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務
- (2) 特質等 別添仕様書による他、入札説明会にて詳細を説明する。
- (3) 業務期間 平成28年4月1日から平成29年3月31日
- (4) 業務場所 熊本県水俣市浜4058-18
国立水俣病総合研究センター

(5) 入札方法

落札者の決定は、最低価格落札方式をもって行うので、

ア. 入札者は、業務に係る経費のほか、納入に要する一切の諸経費を含め契約金額を見積もるものとする。

イ. 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数がある時は、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額を記載した入札書を提出しなければならない。

(6) 入札保証金及び契約保証金 免除

3. 競争参加資格

- (1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
- (2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。
- (3) 環境省から指名停止措置が講じられている期間中の者でないこと。
- (4) 平成25・26・27年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の中で営業品目「運送」又は、「その他」において、開札時まで「B」、「C」又は「D」級に格付けされ、九州・沖縄地域の競争参加資格を有する者であること。
ただし、平成28・29・30年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の中で営業品目「運送」又は「その他」の資格を引き続き取得すること。
- (5) 入札説明書の交付を受け、入札説明会に参加した者であること。
- (6) 別紙の業務請負条件を満たした者であること。
- (7) 環境省入札心得において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約できる者であること。

4. 契約条項を示す場所等

(1) 契約条項を示す場所

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18

国立水俣病総合研究センター総務課経理係 井越 有香

電話0966-63-3111 F A X 0966-61-1145

(2) 入札説明会の日時及び場所

日時 平成28年2月26日(金) 10時00分から

場所 国立水俣病総合研究センター内会議室

※1 平成25・26・27年度環境省競争参加資格(全省庁統一資格)の審査結果通知書の写しを必ず持参すること。

※2 参加者多数の場合は1社1名とする場合がある。

5. 競争執行の日時、場所等

(1) 入札・開札の日時及び場所

日時 平成28年3月4日(金) 16時00分

場所 国立水俣病総合研究センター内会議室

熊本県水俣市浜4058-18

(2) 入札書の提出方法

ア. 電子調達システムによる入札の場合

環境省入札心得に定める様式2を提出し、その後、入札書を(1)の日時まで提出するものとする。

イ. 書面による入札書の場合

環境省入札心得に定める様式3による書面を平成28年3月2日(水)12時まで提出すること。

また、環境省入札心得に定める様式1による入札書を(1)の日時及び場所に持参すること。電話、F A X、郵送等による提出は認めない。なお、入札書の日付は、入札日を記入すること。

ウ. 入札者は、その提出した入札書の引換え、変更又は取消しをすることができない。

(3) 入札の無効

本入札説明書に示した競争参加資格のない者又は入札条件に違反した者の提出した入札書は無効とする。

6. 落札者の決定方法

有効な入札書を提出した入札者であって、当該入札者の入札価格が予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であり、かつ、最低価格をもって入札を行った者を落札者とする。

7. 入札に関する質問の受付

(1) この入札説明書、仕様書等に関する質問がある場合は、次に従い書面(様式は任意)により提出すること。

ア. 提出期限 平成28年2月29日(月)12時まで

(持参の場合は、12時から13時を除く)

イ. 提出場所 4(1)の場所

ウ. 提出方法 持参又はFAXによって提出すること。

(2)(1)の質問に対する回答は、平成28年3月1日(火)17時までにFAXにより行う。

8. 暴力団排除に関する誓約

当該業務の入札については、環境省入札心得において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約の上参加すること。なお、書面により入札する場合は、誓約事項に誓約する旨を入札書に明記することとし、電子入札システムにより入札した場合は、誓約事項に誓約したものとして取り扱うこととする。

9. その他

(1) 入札結果の公表

落札者が決定したときは、入札結果は、落札者を含め入札者全員の商号又は名称及び入札価格について、開札場において発表する。

(2) 電子調達システムの操作及び障害発生時の問い合わせ先

全省庁共通電子調達システムホームページアドレス <https://www.geps.go.jp/>

ただし、入札の締め切り時間が切迫している等、緊急を要する場合には、前記4(1)の場所に連絡すること。

(3) 契約締結日までに平成28年度の予算(暫定予算を含む。)が成立しなかった場合は、契約締結日は、予算が成立した日以降とする。

また、暫定予算になった場合、全体の契約期間に対する暫定予算の期間分のみ契約とする場合がある。

◎ 添付資料

- ・別紙1 業務請負条件
- ・別紙2 環境省入札心得
- ・別添1 契約書(案)
- ・別添2 仕様書

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務に関する業務請負条件

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務については、自動車運行管理に係る高い専門性の確保が必要となる。

以上の観点から、下記に従い業務請負条件に係る確認書類を提出すること。

記

(1) 提出書類 (別添様式)

- ① 自動車運行管理又はこれを類似する業務を実施した実績が確認できる書類 (契約書及び仕様書の写し)。

(2) 提出期限等

① 提出期限

平成28年3月2日 (水) 12時

- ② 業務請負条件に係る書類の提出場所及び作成に関する問合せ先
入札説明書4 (1) に同じ

③ 提出部数

1部

④ 提出方法

持参又は郵送 (提出期限必着) による。

郵送する場合は、書留郵便等の配達記録が残る方法に限る。

⑤ 提出に当たっての注意事項

ア 持参する場合の受付時間は、平日の9時から17時まで (12時～13時は除く) とする。

イ 郵送する場合は、封書の表に「平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務請負条件資料在中」と明記すること。提出期限までに提出先に現に届かなかつた業務請負条件資料は、無効とする。

ウ 提出された業務請負条件に係る書類は、その事由の如何にかかわらず、変更又は取消しを行うことはできない。また、返還も行わない。

エ 虚偽の記載をした業務請負条件に係る資料は、無効とするとともに、提出者に対して指名停止を行うことがある。

オ 業務請負条件に係る書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とする。

カ 提出された業務請負条件に係る書類は、国立水俣病総合研究センターにおいて、業務請負条件の審査以外の目的に提出者に無断で使用しない。一般競争の結果、契約相手になった者が提出した業務請負条件に係る資料は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律 (平成11年法律第42号) に基づき開示請求があった場合においては、不開示情報 (個人情報、法人等の正当な利益を害するおそれがある情報等) を除いて開示される場合がある。

(3) 審査結果の回答

平成28年3月3日 (木) 17時

なお、審査結果通知書の発出にあたっては、原本の郵送に先行して指定された宛先にFAXによる事前送信を行う。

(別添様式)

平成 年 月 日

支出負担行為担当官
国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

所在地
商号又は名称
代表者氏名

印

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務に関する
業務請負条件書類の提出について

標記の件について、次のとおり提出します。
なお、書類の提出にあたり、暴力団排除に関する誓約事項に誓約します。

自動車運行管理又はこれを類似する業務を実施した実績が確認できる書類（契約書及び
仕様書の写し）

(担当者)
所属部署 :
氏 名 :
TEL/FAX :
E-mail :

環境省入札心得 (物品役務 最低価格落札方式)

1. 趣旨

環境省の所掌する契約（工事に係るものを除く。）に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が知り、かつ遵守しなければならない事項は、法令に定めるものの他、この心得に定めるものとする。

2. 入札説明書等

- (1) 入札者は、入札説明書及びこれに添付される仕様書、契約書案、その他の関係資料を熟読のうえ入札しなければならない。
- (2) 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- (3) 入札者は、入札後、(1)の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

3. 入札保証金及び契約保証金

環境省競争参加資格（全省庁統一資格）を保有する者の入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

4. 入札書の書式等

入札者は、様式1による入札書を提出しなければならない。ただし、電子調達システムにより入札書を提出する場合は、同システムに定めるところによるものとする。

なお、入札説明書において「電子調達システムにより入札書を提出すること」と指定されている入札において、様式1による入札書の提出を希望する場合は、様式3による書面を作成し、入札説明書で指定された日時までに提出しなければならない。

5. 入札金額の記載

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

6. 入札書の提出

- (1) 入札書を提出する場合は、入札説明書において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約の上提出すること。なお、書面により入札する場合は、誓約事項に誓約する旨を入札書に明記することとし、電子調達システムにより入札した場合は、当面の間、誓約事項に誓約したものとして取り扱うこととする。
- (2) 書面による入札書は、封筒に入れ封印し、かつその封皮に氏名（法人の場合はその

名称又は商号)、宛名(支出負担行為担当官 国立水俣病総合研究センター総務課長殿と記載)及び「平成28年3月4日開札[平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務]の入札書在中」と朱書きして、入札日時までに提出すること。また、競争参加資格を証明する書類を開札日時までに提出すること。

- (3) 電子調達システムにより入札する場合は、同システムに定める手続に従い、入札日時までに入札書を提出すること。通信状況により提出期限内に電子調達システムに入札書が到着しない場合があるので、時間的余裕を持って行うこと。

7. 代理人等(代理人又は復代理人)による入札及び開札の立会い

代理人等により入札を行い又は開札に立ち会う場合は、代理人等は、様式4による委任状を持参しなければならない。また、代理人等が電子調達システムにより入札する場合には、同システムに定める委任の手続きを終了しておかなければならない。

8. 代理人等の制限

入札者又はその代理人等は、当該入札に係る他の入札者の代理人等を兼ねることができない。

9. 入札の無効

次の各項目の一に該当する入札は、無効とする。

- ① 競争に参加する資格を有しない者による入札
- ② 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- ③ 委任状を持参しない又は電子調達システムに定める委任の手続きを終了していない代理人等による入札
- ④ 書面による入札において記名押印(外国人又は外国法人にあっては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。)を欠く入札
- ⑤ 金額を訂正した入札
- ⑥ 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- ⑦ 明らかに連合によると認められる入札
- ⑧ 同一事項の入札について他人の代理人等を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- ⑨ 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあっては、証明書が契約担当官等の審査の結果採用されなかった入札
- ⑩ 入札書の提出期限までに到着しない入札
- ⑪ 別紙において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約しない者による入札
- ⑫ その他入札に関する条件に違反した入札

10. 入札の延期等

入札参加者が相連合し又は不穩の行動をする等の場合であって、入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくはとりやめることがある。

11. 開札の方法

- (1) 開札は、入札者又は代理人等を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は代理人等の立会いがない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせて行うことができる。
- (2) 電子調達システムにより入札書を提出した場合には、入札者又は代理人等は、開札時刻に端末の前で待機しなければならない。
- (3) 入札者又は代理人等は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は委任状を提示しなければならない。
- (4) 入札者又は代理人等は、開札時刻後においては開札場に入場することはできない。
- (5) 入札者又は代理人等は、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。
- (6) 開札をした場合において、予定価格の制限内の価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行うものとする。電子調達システムにおいては、再入札を行う時刻までに再度の入札を行うものとする。なお、開札の際に、入札者又は代理人等が立ち会わず又は電子調達システムの端末の前で待機しなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。

12. 落札者となるべき者が2者以上ある場合の落札者の決定方法

当該入札の落札者の決定方法によって落札者となるべき者が2者以上あるときは、直ちに当該者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。なお、入札者又は代理人等が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係のない職員がこれに代わってくじを引き、落札者を決定するものとする。

13. 落札決定の取消し

落札決定後であっても、入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消することができる。

14. 契約書の提出等

- (1) 落札者は、契約担当官等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国法人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、落札決定の日から10日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する日に当たるときはこれを算入しない。）に契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。
- (2) 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

15. 契約手続において使用する言語及び通貨

契約手続において使用する言語は日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。

暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記事項について、入札書（見積書）の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、官側の求めに応じ、当方の役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。）。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びにこれらの提出書類から確認できる範囲での個人情報警察に提供することについて同意します。

記

1. 次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

(1) 契約の相手方として不適当な者

ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(2) 契約の相手方として不適当な行為をする者

ア 暴力的な要求行為を行う者

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者

ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者

エ 偽計又は威力を用いて会計課長等の業務を妨害する行為を行う者

オ その他前各号に準ずる行為を行う者

2. 暴力団関係業者を再委託又は当該業務に関して締結する全ての契約の相手方としません。

3. 再受任者等（再受任者、共同事業実施協力者及び自己、再受任者又は共同事業実施協力者が当該契約に関して締結する全ての契約の相手方をいう。）が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。

4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は再受任者等が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、発注元の契約担当官等へ報告を行います。

入 札 書

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
会 社 名
代表者氏名

印

(復) 代理人

印

注) 代理人又は復代理人が入札書を持参して入札
する場合に、(復) 代理人の記名押印が必要。
このとき、代表印は不要 (委任状には必要)。

下記のとおり入札します。

記

- 1 入札件名 : 平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務
- 2 入札金額 : 金額 円
- 3 契約条件 : 契約書及び仕様書その他一切貴省の指示のとおりとする。
- 4 誓約事項 : 暴力団排除に関する誓約事項に誓約する。

様式 2

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所

会 社 名

代表者氏名

印

電子入札案件の電子入札方式での参加について

下記入札案件について、電子調達システムを利用して入札に参加をいたします。

記

入札件名：平成 28 年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
会 社 名
代表者氏名

印

電子入札案件の紙入札方式での参加について

下記入札案件について、電子調達システムを利用して入札に参加できないので、紙入札方式での参加をいたします。

記

- 1 入札件名：平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務
- 2 電子調達システムでの参加ができない理由
(記入例) 電子調達システムで参加する手続が完了していないため

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
(委任者) 会 社 名
代表者氏名

印

代理人住所
(受任者) 所属(役職名)
氏 名

印

当社

を代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

- 1 平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務の入札に関する一切の件
- 2 1の事項にかかる復代理人を選任すること。

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

代理人住所
(委任者) 所属(役職名)
氏 名 印

復代理人住所
(受任者) 所属(役職名)
氏 名 印

当社 を復代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

平成2.8年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務の入札に関する
一切の件

入札辞退届

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
会 社 名
代表者氏名

平成 28 年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務に係る入札を辞退
します。

担当者連絡先

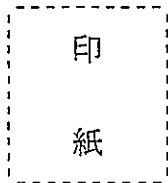
部署名 :

担当者名 :

TEL :

FAX :

E-mail :



契 約 書

支出負担行為担当官 国立水俣病総合研究センター総務課長 大竹 敦 (以下「甲」という。)は、_____ (以下「乙」という。)と「平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務」(以下「業務」という。)について、次の条項により契約を締結する。

(契約の内容)

第1条 乙は、別添の仕様書に基づき業務を行うものとする。

(契約金額)

第2条 契約金額は1日あたり金 円(内消費税及び地方消費税の額 円)とする。
2 前項の消費税及び地方消費税の額は、消費税法(昭和63年法律第108号)第28条第1項及び第29条並びに地方税法(昭和25年法律第226号)第72条の82及び第72条の83の規定に基づき、契約金額に108分の8を乗じて得た額である。

(履行期間及び履行場所)

第3条 履行期間及び履行場所は次のとおりとする。
履行期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
履行場所 国立水俣病総合研究センター
熊本県水俣市浜4058-18

(契約保証金)

第4条 甲は、この契約の保証金を免除するものとする。

(再委任等の禁止)

第5条 乙は、業務の処理を他人に委託し、又は請け負わせてはならない。但し、書面により甲の承諾を得たときはこの限りではない。

(監督)

第6条 乙は、甲の指示監督により業務を行うものとする。
2 業務の遂行にあたって疑義又は不明の点が生じたときは、甲の指示に従うものとする。

(検査及び引渡し)

第7条 乙は、毎月の業務を完了したときは業務終了報告書を作成し、その旨を書面により甲に通知しなければならない。
2 甲は、前項の通知を受けたときは、その日から10日以内に検査を行い、検査に合格した後、乙が成果物の引渡しを申出たときは、直ちにその引渡しを受けなければならない。

3 乙は、前項の検査に合格しないときは直ちに修補して甲の検査を受けなければならない。この場合においては、前項の期間は甲が乙から修補を終了した旨の通知を受けた日から起算する。

(契約金額の支払い)

第8条 乙は、毎月の業務完了後、前条第2項の検査に合格したときは、各月額（この契約の締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約内容に基づき算出した各月額。以下同じ。）の支払いを請求するものとする。

2 甲は、前項の規定による適法な請求を受けたときは、その日から起算して30日以内（以下「約定期間」という。）に契約金額を支払わなければならない。

(支払遅延利息)

第9条 甲は、第8条の約定期間内に契約金額を乙に支払わない場合は、約定期間満了の日の翌日から支払いをする日までの日数に応じ、契約金額に対し、政府契約の支払遅延に対する遅延利息の率を定める告示により財務大臣が決定する率を乗じて計算した金額を遅延利息として乙に支払わなければならない。ただし、約定期間内に支払わないことが、天災地変等甲の責に帰すことのできない事由によるときは、当該事由の継続する期間は、遅延利息の算定日数に算入しないものとする。

(仕様書等の変更)

第10条 甲は、必要があると認めるときは、仕様書等の変更内容を乙に通知して、仕様書等を変更することができる。この場合において、甲は、必要があると認められるときは履行期間若しくは契約金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(業務の中止)

第11条 天災地変その他止むを得ない事由により、業務の遂行が困難となったときは、乙は、甲と協議の上契約の解除を行うものとする。

2 前項の規定により契約を解除するときは、第7条から9条までの規定に準じ精算する。

(契約の解除)

第12条 甲は、次の各号の一に該当するときは、催告することなくこの契約の全部又は一部を解除することができる。

一 乙の責に帰する事由により、乙がこの契約の全部又は一部を履行する見込みがないと認められるとき。

二 乙が第5条、第19条又は第20条の規定に違反したとき。

三 乙又はその使用人が甲の行う監督及び検査に際し不正行為を行い、又は監督官等の職務の執行を妨げたとき。

四 履行期限内に業務結果の提出がなかったとき。

2 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法

律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ)又は暴力団員(同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)であるとき

- 二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
 - 三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
 - 四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき
 - 五 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき
- 3 甲は、乙が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為をした場合は、催告することなくこの契約を解除することができる。
- 一 暴力的な要求行為
 - 二 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - 三 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
 - 四 偽計又は威力を用いて甲等の業務を妨害する行為
 - 五 その他前各号に準ずる行為

(再受任者等に関する契約解除)

- 第13条 乙は、契約後に再受任者等(再受任者及び共同事業実施協力者並びに乙、共同事業実施協力者又は再受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。)が第12条第2項及び第3項の一に該当する者(以下「解除対象者」という。)であることが判明したときは、直ちに当該再受任者等との契約を解除し、又は再受任者等に対し契約を解除させるようにしなければならない。
- 2 甲は、乙が再受任者等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再受任者等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該再受任者等との契約を解除せず、若しくは再受任者等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

(違約金等)

- 第14条 甲が第12条又は前条第2項の規定により契約の全部又は一部を解除した場合は、乙は契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 2 乙が、次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、乙は、甲の請求に基づき、契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 一 この契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。)第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が乙に対し、独占禁止法第7条の2第1項(独占禁止法第8条の3において準用する場合を含む。)の規定に基づく課徴金の納付命令(以下「納付命令」という。)を行い、当該納付命令が確定したとき(確定した当該納付命令が独占禁止法第51条第2項の規定により取り消された場合を含む。)
 - 二 納付命令又は独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定に基づく排除措置命令(これらの命令が受注者又は受注者が構成事業者である事業者団体(以下「乙等」という。)に対して行われたときは、乙等に対する命令で確定したものをいい、乙等に

対して行われていないときは、各名宛人に対する命令全てが確定した場合における当該命令をいう。次号において「納付命令又は排除措置命令」という。)において、この契約に関し、独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。

三 納付命令又は排除措置命令により、乙等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が乙に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。）に入札（見積書の提出を含む。）が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。

四 この契約に関し、乙（法人にあつては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

3 乙が前二項の違約金を甲の指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

（損害賠償）

第15条 甲は、第12条第2項、第3項又は第13条第2項の規定によりこの契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

2 乙は、甲が第12条第2項、第3項又は第13条第2項の規定によりこの契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。

（表明確約）

第16条 乙は、第12条第2項及び第3項のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約する。

2 乙は、解除対象者を再受任者等としないことを確約する。

（不当介入に関する通報・報告）

第17条 乙は、自ら又は再受任者等が、暴力団、暴力団員、社会運動・政治運動標ぼうゴロ等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は再受任者等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

（かし担保）

第18条 甲は、第7条の規定により引渡しを受けた後1年以内に隠れたかしを発見したときは、直ちに期限を指定して当該かしを修補させることができるものとする。

（秘密の保全）

第19条 乙は、この契約の履行に際し知得した相手方の秘密を第三者に洩らし又は利用してはならない。

(債権譲渡の禁止)

第20条 乙は、この契約によって生じる権利又は義務の全部若しくは一部を甲の承諾を得た場合を除き第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の2に規定する金融機関に対して売掛債権を譲渡する場合にあっては、この限りではない。

(紛争又は疑義の解決方法)

第21条 この契約について、甲乙間に紛争又は疑義を生じた場合には、必要に応じて甲乙協議して解決するものとする。

本契約の証として本書2通を作成し、当事者記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成28年 月 日

甲 住所 熊本県水俣市浜4058-18
氏名 支出負担行為担当官
国立水俣病総合研究センター
総務課長 大竹 敦



乙 住所
氏名



業務仕様書

1. 業務名

平成28年度国立水俣病総合研究センター自動車運行管理業務

2. 期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

3. 業務内容

(1) 業務の範囲

(3)に定める管理車両等について、以下の業務を行う。

- ア. 車両の運行及び日常点検、整備、清掃
- イ. 燃料等の給油
- ウ. 事務手続きの代行
- エ. 事故処理に関する全般
- オ. 自動車保険（任意保険）に関する全般
- カ. その他各号に付帯する事項

(2) 運転業務期間等

ア. 業務を行う期間等は月曜日～金曜日、8時30分～17時30分(うち1時間の休憩時間を取ることとする。)を基本とした実働8時間とし、業務期間中は1名業務に従事することとする。なお、業務上必要がある場合には、国立水俣病総合研究センター(以下「甲」という。)担当官の指示により、従事者数を追加することができるものとする。

ただし、国民の祝日に関する法律に規定する休日、12月29日～12月31日及び1月2日～1月3日は除く。

イ. 業務の都合上必要があると認めるときは、休日(アに規定する日以外の日をいう。以下同じ。)、時間外及び宿泊を伴う場合においても業務を請け負わせることができるものとする。

時間外労働及び休日出勤は、労働基準法第36条第1項の規定に基づく範囲内とし、時間外管理料については、日額の8分の1の額に100分の125を乗じた額を1時間当たりの額とし、深夜時間外管理料については100分の150を乗じた額とし、休日手当管理料は100分の135を乗じた額とする。なお、時間外管理料等の計算方法は、時間計算は、5分単位とし、1ヶ月の合計時間30分以上の場合1時間に切り上げ、30分未満は切り捨てるものとする。

(3) 管理車両等

ア. 管理車両は、甲が所有し、又は借り受ける以下の車両とする。

- ・熊本 501 も 9379 ホンダフィットシャトル
- ・熊本 500 み 7055 トヨタクラウン
- ・熊本 800 す 2360 トヨタハイエース(特殊車両)
- ・熊本 400 て 7144 トヨタハイエースバン
- ・熊本 301 そ 3172 トヨタエスティマ

ただし、当該管理車両が修理等で走行できないときは、甲が提供する任意保険加入済みの代替車両で行うこととする。

イ. ハイエース(特殊車両)の運転時には、昇降機等の操作も行うこととする。

ウ. 管理車両及び車庫の鍵は、登庁時に甲から受け取り、帰宅時に返却するものとする。

(4) 任意保険

請負者（以下「乙」という。）は、管理車両及び運行に係る一切の事務の代行及び自動車保険に係る事務を代行するものとし、次に定める任意保険に加入するものとする。

ア. 車 両：車両に対する時価

イ. 対 人：1名無制限 1事故無制限

ウ. 対 物：無制限

エ. 人身障害：3, 000万円

乙は、任意保険に加入した場合は、直ちに保険証の写しを甲に提出するものとする。

また、任意保険に係る費用は乙が負担するものとする。

(5) 運転管理要領等

ア. 管理仕様書（別添）に基づき管理車両及び代替車両（以下「管理車両等」という。）を管理すること。

イ. 本請負業務を行うため、車両管理責任者及び車両管理者を定め、その名簿を甲に提出し、確認を受けること。

ウ. 車両管理責任者は、請負業務を総合的に担当し、業務に関し文書の指示又は連絡を受け、車両管理者の指揮管理に当たり、業務を指示すること。

エ. 車両管理者は、必要に応じてあらかじめ地図等を用いてルート確認を行った上で、管理車両等に甲職員等を乗車させ、目的地までの運行を行うこと。

また、管理車両等を適正な状態に保つための点検及び整備・清掃を行うこと。

オ. 車両管理者については、年齢が65歳以下であり、コミュニケーション能力を有し、自動車運転歴が5年以上あり、かつ、水俣市周辺（水俣芦北地域及び出水市）の道路事情に詳しい者を専従させること。

カ. 乙は、車両管理者が休務した場合等において代務対応が可能である運行管理体制及び不測の事態（事故、緊急代務）における管理体制が確立されていることを確認できる書類を甲に提出すること。

4. 業務の報告及び確認

車両管理者は、毎日の管理運行状況について、別紙1に定める自動車運行日報1部を作成して車両管理責任者に提出し、確認を受けるとともに、乙は、確認を受けた自動車運行日報1部を甲に送付し検印を受けるものとする。また、別紙2に定める勤務報告書を作成し、車両管理責任者に提出し、その内容について確認を受けるとともに、乙は、確認を受けた勤務報告書を甲に送付し、確認を受けるものとする。

5. その他

(1) 業務実施中に、本施設の建物・備品等を破損、または紛失した場合には、請負者は原状回復の責を負い、原状回復が不可能な場合には当該損害を賠償するものとする。

(2) 本業務に関し、疑義が生じた場合は、研究センター総務課担当官と協議のうえ、その指示に従うものとする。

管理仕様書

1. 乙は、車両管理責任者及び車両管理者を定め、甲にあらかじめ通知し承認を得るものとする。ただし、車両管理者が休暇等により、車両の運行業務を行えない場合は、代替者を選任し派遣することとする。車両管理責任者は業務履行の責任者であり車両管理者に対する日常業務の指示、指揮監督を行うとともに甲の包括的な指示及び連絡を受ける任に当たる。
2. 車両管理者は、管理車両等の管理・保管を行い、請負業務以外に使用してはならない。
3. 車両管理者は、日常の点検整備、運行前の点検及び運行後の点検清掃を行い、管理車両等の清潔を保つようとする。
4. 車両管理者は、管理車両等への給油を甲の指示する場所で行うものとする。
5. 車両管理者は、管理車両等に係る消耗品及び備品の保管・管理に当たるものとする。
6. 車両管理者は、管理車両等が故障し修理に長期間を要する場合又は救援を必要とする場合は、速やかにその旨を甲及び車両管理責任者に報告し、車両管理責任者の指示を受けなければならない。
7. 車両管理者は、管理車両が格納保管場所以外での場所で事故を起こし、又は巻き込まれた場合には、速やかにその旨を甲及び車両管理責任者に報告し、車両管理責任者の指示を受けなければならない。さらに、事故の際の交渉・補償の処理及び修理の手配を行い、これに要する費用は乙の負担とする。
8. 車両管理者は、運行の途中一時駐車するときは、管理車両等から離れてはならない。ただし、やむを得ない事情により管理車両等から離れる場合には、盗難及び損傷の防止のための措置を講じなくてはならない。
9. 車両管理者は、管理車両等を亡失又は損傷した場合には、直ちに最寄りの警察署又は派出所に届けるほか、速やかにその旨を甲及び車両管理責任者に報告し、車両管理責任者の指示を受けなければならない。
10. 車両管理者は、終業後の点検を終えた後、直ちに甲が指定又は認定した格納保管場所に格納・保管しなければならない。
11. 車両管理者は、業務上知り得た事案について、守秘義務を負うものとする。

運 転 日 誌

総務課長	庶務係長
------	------

日 付 平成 年 月 日 ()
 天 候 晴れ・くもり・雨
 運 転 者 印

使用車両	同乗者	行 先	所要時間	備 考
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	

	クラウン	患者送迎車	ハイエース	フィットシャトル	エスティマ
本日走行距離	km	km	km	km	km
累計走行距離	km	km	km	km	km
給 油 量	L	L	L	L	L

(別紙 2)

勤務報告書

平成 年 月分

車両管理者

日(曜日)	勤務時間 (法定時間内)		休憩 時間	超過勤務時間 (法定時間外)		深夜勤務時間 (22時以降)		業務内容	確認 印
		H			H		H		
1日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
2日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
3日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
4日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
5日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
6日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
7日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
8日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
9日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
10日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
11日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
12日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
13日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
14日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
15日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
16日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
17日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
18日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
19日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
20日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
21日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
22日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
23日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
24日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
25日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
26日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
27日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
28日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
29日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
30日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
31日()	: ~ :			: ~ :		: ~ :			
計									

検査職員

環境省

(勤務報告書記入にあたっての注意)

- ①勤務時間の欄には、1日実働8時間までの勤務した時間を記載
(例: 9:00~18:00(8時間+休憩1時間))
- ②超過勤務時間の欄には、勤務時間の欄に記載した以降に勤務した時間(22時以前まで)を記載
- ③深夜勤務時間の欄には、22時以降に勤務した時間を記載
- ④全ての勤務時間は、5分単位で記載し、[H]の欄は「○h○○」と記載する。